

## ●スペインのグアルデリアを視察して

団員 池田 美恵

1月26日（木）10時から、スペイン・バルセロナ市のカスポリノグアルデリアの視察を行った。こちらは、市営の0歳から3歳児の教育と保育を行う施設である。バルセロナ市では、乳幼児に対する保育の関わりも教育として考えており、保護者の就労の有無に関係なく、0歳から乳幼児教育保育施設に入園できる。そこでは、発達段階に応じた環境整備と教育プログラムを実施していた。



（校長先生によるレクチャー）

市のグアルデリアの運営方針として、教育保育の施設環境を、子どもの活動に必要な広さ、家庭的な雰囲気、風通しと彩光、適した家具の設置、行き来が自由にできることに配慮して施設整備を行っている。

教育保育でのプログラムや保育士の関わり方について最も重要なこと

は、子どもの自立心を育てることとしている。押しつけではなく、子どもの様子を常に観察し、それぞれの子どもがその時々で必要としているサポートを見極め、保育士は援助を行うという考え方である。子どもがやりたいことをやりたいところに行って行うようにしている。子どもは日常生活の中で発達していくのであるから、その関わりはすべて教育であるという考えで保育を行っている。

また、教育活動に親の参加を促すように配慮や工夫をしている。

バルセロナ市では、かなり前から0歳からの教育に力を入れており、市営のグアルデリアは、2003年には47施設であったが、現在は98施設にまで増えており、ニーズがまだあるので増やしていく努力をしている。ただ、設置運営には資金が必要なため時間がかかっている。

なお、3歳から6歳の幼児施設は無料で、すべての児童が入園できる状態で設置されている。6歳から11歳の初等教育と12歳から14歳の中等教育が義務教育である。

基本的な市の運営方針と基準に基づいて、設置運営はされているが、日常の保育活動は、それぞれの子どもの様子に沿って行われることであるので、施設ごとの職員のチームワークが重要であるという考え方であり、先生方の自主性を大事にして、細かいところは施設内で話し合っている。



(レクチャーを受ける視察団)

また、教育プログラム計画を作成し、実行、検証、改善を継続的に行って、よりよいものにしていくよう取り組んでいくことを大切にしている。

障がい児の受け入れも行っており、最高3人までは受け入れることが可能になっている。その場合には、必要に応じて、個別支援担当を別途配置したり、外部のリハビリや指導を受けるなどしている。

カスポリノグアルデリアのクラス編成は、0歳、1歳、2歳、3歳、と年齢別で、6クラスあり、87人の乳幼児が通園している。

教育及び保育を行う職員は、全員が市の正職員で、各クラス担当が6人とほかに2人。週35時間勤務で残業は基本的にない。校長も先生職を30時間行い、校長職を5時間担当する。

資格は、大学や専門学校で取得し、専門職として勤務するほか、毎年、大学での研修を受けている。ほかに給食、掃除が外部委託で人員配置がある。

給食は、市の栄養士の作成する献立に従い、外部委託の調理師が各保育園で調理し、アレルギー対応もしている。



(施設内の視察風景)

開園時間は、月曜日から金曜日の8時から17時。延長や休日などの営業はない。なお、17時から18時の1時間は、お迎えに来た保護者が施設内で遊ぶことを許されている。これは、親の参加を促す工夫の一つである。

保育は、カタルニア語で行われている。

こちらは、日常的に地域や家庭でそれぞれ様々な言語が使われている。

教育には、様々なプログラムが行われていて、木や木の実、石などの自然物を利用した遊びや家庭生活の模倣、芸術的な活動などができるようにしている。また、その活動を保護者などに知らせている。

施設見学をして特に感銘したことは、絵や造形のための教室が設置され、様々

な材料が準備してあり、光と影で遊ぶ部屋には、専用機材が整備され、毎週金曜日には演劇鑑賞を行うなど、文化芸術的にとても充実していたことであった。

また、保育士が声を出して指導する様子もなく、どのクラスの子どもたちも泣き叫んだり、激しく動いたりする様子がなく、終始静かで穏やかに笑顔の絶えない幸せに満ち足りた感じを受けた。

校長先生と市の指導主事の説明によると、環境を整備し、子どもたちの欲求に従って自由に行動でき、子どもの意欲的な活動をサポートして自立心を育てるように関わっていれば、子どもたちは穏やかに活動できるとのことだった。

最後に、今回の視察で校長先生たちから伺ったことや学んだことを、今後の子育て支援に生かしていきたいと思う。



(施設前にて集合写真)